

7 穎娃高校 指宿市のPRについて

(質問)

穎娃高校から2つ目の質問です。指宿市のPRについてです。

現在、指宿市観光課より37本のPR動画がユーチューブにアップされ、公式インスタグラムや公式LINEなどSNSを介して、指宿市のPRに努められていると感じています。

指宿市の魅力を発信し、観光に来てもらうためのPRを、今後どのように進められていくのかお聞かせください。

また、ある市では、市長自らがSNSで発信をして、市の収益として一役担っていることが話題になったことがありました。

指宿市もSNSを活用して収益化すれば、指宿市の財政や地域活性化のための予算として潤うと思うのですが、現在SNSを通じて収益化しているでしょうか。していない場合は、今後検討する予定はあるでしょうか。

(答弁)

指宿市のPRについて質問をいただきました。

まず、インスタグラムについてですが、観光課において、「インスタグラムの運用方針」というものを設けて、最低週に1回は投稿するようにしています。皆さんもご覧になっていると思いますが、かいもん山麓ふれあい公園で行われたオールドカーフェスタや山川のみなと祭り、菜の花マラソンなど、指宿市で行われたイベントの様子、また、池田湖や魚見岳の桜など、その時々々の自然の様子、さらには、知林ヶ島へ渡る砂州の情報などを投稿しています。

そのほかのフェイスブックやエックスなどのSNSは、インスタグラムのように定期的ではありませんが、砂むし会館「砂楽」など公共施設の休館情報や観光地のリニューアル情報などを掲載しています。今後は、インスタグラムを中心に、専門家の指導をいただきながら、より見やすく、また見たくなるような投稿を引き続き行っていくことでした。

次に、指宿市もSNSを活用して収益化すれば良いのではないかと提案をいただきました。

今のところ、観光課ではSNSを活用して収益を図ることは考えていないとのことです。市では、「デジサポ指宿」初心者向け簡単デジタルサポート室 from 指宿という題名で、市の公式アカウントでユーチューブに動画をアップしています。ご覧になったことがある方はいらっしゃいますか？

皆さんもご存じだと思いますが、広告収入を得るには基準がございまして、ユーチューブになりますけど、登録者数が1,000人以上、動画の再生時間が1年間で4000

時間以上、そのほかにも細かい規定があるようなのですが、おおむねそのような内容となっています。

市として広告収入を目的とした動画の作成を行っていくことは決めてはいませんが、結果、収入が得られることができれば、それに越したことはありませんので、創意工夫を凝らしながら今後も取り組んでいきますので、皆さんも動画を是非ご覧ください。

(生徒)

今お話を聞いていて思ったのですが、指宿でフォトグランプリみたいなイベントを実施し、若い人にも分かるように高校などにもポスターを貼って募集を行い、特賞だったら図書カードなどの賞品を贈り、そしてその写真をInstagramなどに載せるというのはいかがでしょう。

指宿の観光名所や観光スポットを題材にしたら、その写真を撮りに行く本人がその観光名所等を訪れることになるし、いろんなところを見てみたいという関心もわくのではないかなと思ったのですが、そういうのはどうでしょうか。

(議員)

素晴らしい提案をありがとうございます。

指宿をどうやってPRするかというのが一番の問題ですので、今頂いた内容を担当の委員会としても市に伝えて、しっかりできるようにしていきたいと思います。ありがとうございます。

(議員)

素晴らしい提案だと思うのですが、指宿のInstagramでレトロピカル指宿を聞いたことがございますか。

指宿市内の観光名所や風景などをInstagramにアップして、レトロピカル指宿とハッシュタグをつけてですね、一定期間の募集で、成績優秀とかその目的に合った人には商品券やそうめん流しの食事券とかを差し上げるということもやっているようです。これは期間を決めて行っているようですが、同じようなことを提案されているのではないかと思います。ですから、現にやっている部分がありますが、またそれを発展させていければ素晴らしいことだなというふうに思いますので、今後、私としても提案していきたいと思います。